

事業所名

あさがおクラブ

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2025年

4月

1日

法人（事業所）理念	お互いに学び合い、支え合いながら、共に成長し、喜びを分かち合うことを支援と捉え、本人、家族、地域、関係機関と協力し、環境や仕組みを整え、すべての人が自分らしく安心して参加できる社会（場）を創る。 ・個人が自分らしく生きる、ありのままの自分を大切にできるよう、心の支えとなる。 ・家族・関係機関と協力し、個々の真のニーズをくみ取り一人ひとりの成長に寄り添う。 ・社会での利用児童、家族の孤立を防ぎ、社会モデルに基づく地域支援を行う。				
支援方針	私たちは、行動修正を求めるのではなく、子どもたちの心に焦点を当て、その言動の背景にある意味を考える支援を行います。利用する子どもたちには「楽しさ」を感じてもらい、保護者には「安心」を提供する活動や取り組みを大切にします。また、障害特性、発達状況、生活環境を十分に理解し、一人ひとりに合わせたプログラムや環境を整えることで、子どもたちが安心して過ごし成長できる場を提供します。事業所は、児童の居場所であり、保護者の拠り所となるように共に考え共に歩んでいきます。				
営業時間	10時	0分から	18時	0分まで	送迎実施の有無 (あり) なし
支援内容					
本人支援	健康・生活	児童が安心して過ごせる環境の中で、基本的な生活習慣を楽しみながら習得できるよう支援します。毎日の手洗い等の習慣化や身辺自立をサポートしていきます。リズムに合わせた歌や絵本の読み聞かせ、体を使った遊びを取り入れて、自主的な取り組みを促します。また、旬の食材を使った簡単な調理体験を通じ、食への興味や健康意識を育む食育活動を実施。さらに、リラクゼーションの時間や友だち同士の交流を大切に、安心してのびのびと成長できる「第2・第3の居場所」として、子どもたちの心身の発達を総合的にサポートします。また検温や体調確認を行い、不調時は保護者と連絡をとり連携した対応を行います。			
	運動・感覚	運動や感覚遊びを通じて、基礎体力や感覚統合力を楽しく育める環境を整えます。ボール遊びや簡単なサーキット運動を取り入れ、体を動かす喜びを感じながら、協調性やリズム感を養います。また、砂遊びや水遊び、粘土遊びなど多彩な感触遊びで触覚刺激を与え、集中力や感覚力を伸ばしていきます。バランスボールや平均台を活用した運動では、自己の身体コントロールとバランス感覚を身につけるとともに、個々の発達段階に合わせた適切な挑戦の機会を提供し成長へと繋げていきます。			
	認知・行動	児童が遊びながら認知力や問題解決力を育む活動を実施しています。パズルや簡単な工作に取り組む中で、達成感を味わいながら順序立てて考える力を養い、目標に向かって自分なりの工夫を重ねる体験を提供します。また、感情表現を促すために、必要に応じて絵やカードを活用した「気持ちを伝える時間」を設け、自己理解と自己表現力の向上を図ります。さらに、必要に応じてスケジュール表を作成し行動の見通しを立てられるようにして計画的に行動する力や安心して次に行動に移れるようにしていきます。			
	言語コミュニケーション	言葉と非言語の両面でコミュニケーションの基礎を楽しく学べる環境づくりに努めています。しりとりや絵本の読み聞かせ等を通して、言語に親しみながら自分の思いを伝える練習を実施。自己紹介や「今日の出来事」を話す活動では、幼児が自分の気持ちを言葉で表現する力を育みます。さらに、ジェスチャーや表情と感情表現を活動の中で考え、言葉以外の方法で気持ちを伝える体験（絵カード等の視覚支援）を提供し、日常の会話や友だちとの交流がより円滑になり、また自己表現の幅が広がられるようにしていきます。			
	人間関係社会性	他者と楽しく関わりながら協力する力を育むグループ活動を提供します。簡単な工作やおもちゃ作りでは、友達と役割を分担し、一緒に完成させる達成感を味わいます。さらに、「ありがとう」や「ごめんね」といったやり取りや異年齢との関りの中で自分の気持ちを伝える大切さや相手の気持ちを考えることを体感します。また、地域のイベントや近隣の公園活動を通じて、多様な人との交流を体験し、社会の中での自分の役割や他者とのつながりを学べるよう支援します。			
家族支援	家庭と連携した支援を重視し、子どもの成長をご家族と共有することで、家庭での療育をサポートします。日々の活動内容や子どもの成長記録を日報を通じて伝えるほか、ご家族向けの面談を定期的実施し、家庭での療育の進め方や課題解決について一緒に考えていきます。また、知的・発達障害等に関する知識や対応方法を学べる講習会を開催し、ご家族が安心して子育てできる環境を整えます。また悩みや不安を気軽に相談できる窓口を設け、家族全体の支援に努めます。	移行支援	子どもたちが地域で安心して過ごせるよう、地域との交流や体験活動を積極的に計画します。例えば、公園や商店街での社会体験、地域イベントへの参加、近隣施設の利用等、様々な活動を計画し実施します。子どもたちが地域の一員として多様な経験を積み、安心感や自己肯定感を育むことを目指します。		
地域支援・地域連携	地域社会と連携し、子どもたちが地域の一員として成長できる環境を作ります。例えば、近隣で開催されるイベントや清掃活動に積極的に参加することで、地域の方との交流を深めます。また、他施設との交流や異年齢交流の場を提供し、子どもたちが多様な人間関係を学ぶ機会を作ります。学校や医療機関、福祉施設との情報共有を行い、子どもの発達や支援状況を共有することで、より効果的な支援を実現します。	職員の質の向上	支援への知識だけでなく、人権と権利擁護を基盤とした支援姿勢、社会モデルに基づき、障害を個人の特性として捉えるのではなく、社会の側の環境調整や配慮が必要であることを理解できるような機会を作ります。子どもの自己決定を尊重し、誰もが平等に社会参加できるよう支援する役割を果たせるよう定期的な人権研修や倫理意識の共有を通じて、支援者としての基本姿勢を磨き、安心と信頼を築くことができるよう学び（研修）に取り組めます。		
主な行事等	野外交流会（年1回）、交流の場（ご家族間の交流 年2回）、合同懇談会（年1回）、花の会運動会（生活介護事業所との共催）、福祉サービス研修会（年1回）				

事業所名

あさがおクラブ

支援プログラム (放課後等デイサービス)

作成日

2025 年

4 月

1 日

法人 (事業所) 理念	お互いに学び合い、支え合いながら、共に成長し、喜びを分かち合うことを支援と捉え、本人、家族、地域、関係機関と協力し、環境や仕組みを整え、すべての人が自分らしく安心して参加できる社会 (場) を創る。 ・個人が自分らしく生きる、ありのままの自分を大切にできるよう、心の支えとなる。 ・家族・関係機関と協力し、個々の真のニーズをくみ取り一人ひとりの成長に寄り添う。 ・社会での利用児童、家族の孤立を防ぎ、社会モデルに基づく地域支援を行う。					
支援方針	私たちは、行動修正を求めるのではなく、子どもたちの心に焦点を当て、その言動の背景にある意味を考える支援を行います。利用する子どもたちには「楽しさ」を感じてもらい、保護者には「安心」を提供する活動や取り組みを大切にします。また、障害特性、発達状況、生活環境を十分に理解し、一人ひとりに合わせたプログラムや環境を整えることで、子どもたちが安心して過ごし成長できる場を提供します。事業所は、児童の居場所であり、保護者の拠り所となるように共に歩んでいきます。					
営業時間	10 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容						
本人 支援	健康・生活	学習や日常生活の中で必要な基本習慣の確立を目指し、手洗いや歯磨きといったセルフケアの習慣や身辺自立をサポートします。児童のペースに合わせた支援計画により、自主性と自己管理能力を養い、日常生活での自立を促進。また、季節ごとの新鮮な食材を活用した調理体験や食育活動を通して、健康的な食生活への理解を深め、栄養バランスの大切さを学びます。さらに、リラクゼーションやグループ活動を取り入れた安心して居場所を提供し、心身のリフレッシュと対人関係のスキル向上により、社会参加への自信を育む支援を行っています。また検温や体調確認を行い、不調時は保護者と連絡をとり連携した対応を行います。				
	運動・感覚	時間的な制約もあり、長期休暇等、時間があるときが中心になりますが、野外遊びを通じて体力向上と感覚統合力を培う活動を行います。ボール遊びや鬼ごっこ等、自分がしたい参加したい活動を通じて、体を動かす楽しさと持久力、協調性を養いながら、自己管理能力を向上を目指します。また、集中力やリラクゼーション効果を促進。バランスボールなど取り入れた体幹を意識した遊びにより、身体のバランス感覚とコントロール力を育成。児童の個性、特性に応じた活動を提案し、成長へと繋げていきます。				
	認知・行動	学齢期の児童がさらに事業所の活動を通じて認知力や問題解決力が自然に身につけられるよう、体験的な活動を展開します。ウノやトランプ等のカードゲームやパズル、工作活動では、自分で考える力を駆使して課題に取り組む過程で達成感を得るとともに、順序立てた段取りと行動の重要性への気づきを促します。また、日々の活動スケジュールを提示 (視覚支援) し見通しを立てやすいようにして自己管理や計画的な行動力を向上させます。さらに、様々な活動を通じて感情表現の練習を通じて、自分の気持ちに気づき、自己理解とコミュニケーション能力を深める取り組みを行い、安心して挑戦できる環境づくりに力を入れています。				
	言語 コミュニケーション	学齢期児童がより自分に適した表現、コミュニケーション力を身につけるため、言語と非言語の両側面から支援するようにしています。日常会話や日々の活動を通じて、一緒に表出方法を考えサポートしていきます。また、職員・友達のジェスチャーや表情、感情を考え、言葉に頼らず感情や意図を伝える力につなげる取り組みを実施。日常生活や様々な環境において円滑な対話や協調性を促進し、自己表現力の向上と相手への理解につながるよう取り組みます。また、絵カードや視覚支援を行いながら自己表現の幅が広げられるようにしていきます。				
	人間関係 社会性	他者との協力を深める活動が自然と取り組めるよう環境設定を行います。料理やクラフト活動では、計画を立て役割分担をしながら協力して仕上げるプロセスを通じて、責任感や協調性を養います。さらに、施設外での体験活動に参加し、社会で自分と他者を意識しながら実践的なコミュニケーション力が培われるようにします。日々の活動では、「ありがとう」「ごめんね」と言ったやり取りや異年齢との関りの中で自分の気持ちを伝える大切さや相手の気持ちを考えることを体感します。これにより、自信を持って他者と関わる力を身につけられるよう支援します。				
家族支援	家庭と連携した支援を重視し、子どもの成長をご家族と共有することで、家庭での療育をサポートします。日々の活動内容や子どもの成長記録を日報を通じて伝えるほか、ご家族向けの面談を定期的実施し、家庭での療育の進め方や課題解決について一緒に考えていきます。また、知的・発達障害等に関する知識や対応方法を学べる講習会を開催し、ご家族が安心して子育てできる環境を整えます。また悩みや不安を気軽に相談できる窓口を設け、家族全体の支援に努めます。	移行支援	子どもたちが地域で安心して過ごせるよう、地域との交流や体験活動を積極的に計画します。例えば、公園や商店街での社会体験、地域イベントへの参加、近隣施設の利用等、様々な活動を計画し実施します。子どもたちが地域の一員として多様な経験を積み、安心感や自己肯定感を育むことを目指します。			
地域支援・地域連携	地域社会と連携し、子どもたちが地域の一員として成長できる環境を作ります。例えば、近隣で開催されるイベントや清掃活動に積極的に参加することで、地域の方との交流を深めます。また、他施設との交流や異年齢交流の場を提供し、子どもたちが多様な人間関係を学ぶ機会を作ります。学校や医療機関、福祉施設との情報共有を行い、子どもの発達や支援状況を共有することで、より効果的な支援を実現します。	職員の質の向上	支援への知識だけでなく、人権と権利擁護を基盤とした支援姿勢、社会モデルに基づき、障害を個人の特性として捉えるのではなく、社会の側の環境調整や配慮が必要であることを理解できるような機会を作ります。子どもの自己決定を尊重し、誰もが平等に社会参加できるよう支援する役割を果たせるよう定期的な人権研修や倫理意識の共有を通じて、支援者としての基本姿勢を磨き、安心と信頼を築くことができるよう学び (研修) に取り組みます。			
主な行事等	野外交流会 (年1回)、交流の場 (ご家族間の交流 年2回)、合同懇談会 (年1回)、花の会運動会 (生活介護事業所との共催)、福祉サービス研修会 (年1回)					